

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目標がはあるが継続性に欠ける。	毎週朝礼にて5つの理念をスタッフ全員が唱和し、職員全員で意識統一を図っている。また、年4回互いに評価し合うことで、理念の共有化を図りながら、サービスの向上に役立っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的ではない。	地域の老人会と行事(お飾りづくり、お祭り等)を一緒に行なうことで、活発に交流が行なわれている。また、法人全体も地域に向けて積極的に呼びかけをすることで、施設に来訪しやすいような環境が整えられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センター等を通じてある相談内容について、その方法などを伝えていき対応を活かしているのでは、と思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告、話し合いは毎回行っている。活かされているかどうかは、評価は低い。	2ヶ月に1回の定期的な運営推進会議には地域や行政等の方々が参加しており、地域の情報や施設での取り組み等についての意見交換が活発に行われ、サービスの向上にも役立てられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	密とは言えない。	法人の中に地域包括支援センターが設置されており、地域の情報が速やかに伝わる体制が整えられている。また、大学から講師を招いて情報交換する場も設けられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則禁止し、実施中です。	職員全員が身体拘束禁止の意義を正しく理解できるよう、日々のケアの中で管理者自ら職員の指導にあたっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	気づいた時に、お互いに注意し合うようにし、増長しないように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症介護の支援としては不可欠。カンファレンス毎に必要な用件の都度、話を進めるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面会時等を利用し、施設から説明を積極的に行うように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訴えのある旨、要望等は面会時など常に職員から声を掛けて、聞き出す様にしています。	日頃から利用者家族が話しやすいように、雰囲気作りや湯茶のサービスを提供することで、サービスにおける家族からの要望等を引き出しながら運営に反映する努力がなされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議(不定期)や毎朝、他の各ユニットをラウンドで聞き取り、必要に応じて個別対応も行う。	小さな問題も見逃さないように、日頃から管理者とスタッフの間で意見交換ができるような体制が整えられている。また、定期的な会議において、スタッフ間の提案事項を組み込みながら、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めているが、労使間の意見や、視点の相違など問題点はあると思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実施促進しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関わる機会が中々持てていない現状にあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護の初めは聞くことから、実践するよう努めているが、逆転することが多い。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族も含めたケアを取り組み中。具体的に結び付かないのが現状。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	軌道修正中、ADL面に重点を置きすぎている面がある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	17項に同じ。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	17項に同じ。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設と今の現状では難しいと思われます。	利用者が大切にしてきた馴染みの環境が途切れないように 家族や友人の来訪を積極的に支援している。また、必要に応じて外出や自宅への付き添いを行なっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	繰り返してはありますが、常に間を保つように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望、求めに応じて相談に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思の尊重を大切に、の気持ちは強い。検討を重ね実施するよう努めています。	施設のペースではなく、入居者本人のペースに合わせた支援が行われている。また、入居者の表情や行動をよく観察することで、要望等がない利用者さんにも安心して過ごせる環境が提供できている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めているが、施設対応での限界はあるようです。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24項に同じ。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス以外でも、細かな所は、その都度変更し確認しながら、継続するよう努めています。	利用者さんの家族が来訪された時、出来るだけ家族の意向をお伺いしている。そして、安心して任せて頂けるようにスタッフからの気づきも取り入れながら、チームで介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	26項に同じ。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	26項に同じ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握が困難です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診希望や説明等は、常に受け付けており、それにそった支援に努めています。	週1回以上の定期的な往診が確保されている。また、隣接の訪問看護ステーションと連携を取ることで、安心した医療が受けられ、重度化を防ぐ支援にも繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を密にとりながら、指導を受け、安定した体調が保てるよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	経過を常に情報収集を行い、早期に日常生活に戻れる様に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	未だその地域での対応まで至らないが、先の不安についての方向性はその都度伺い、説明し、共に支援していくよう。	入所時に本人・家族の意向を伺いながら、医療方針が立てられ、重度化を防ぐ為のケアが実践されている。また、家族の希望により、看取り体制も整えられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練まで至らず、定期で行えていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制が不十分。	年2回の避難訓練には利用者も参加している。安全に避難できる方法は全職員周知している。また、AEDを設置したり、管理者が消防署の講習を受けたりして、日頃から安全に過ごせるような防火体制が整えられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	左記の為には、各職員の精神、コントロールができるように、お互いの声掛けが必要とする点を軽視。	職員は入居者一人ひとりの人格尊重において、利用者の羞恥心を考えながら、言葉遣いやケアのあり方について日頃から勉強している。また、管理者とスタッフ間での研修を通して、プライバシーの確保に重点を置いたサービスを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	36項に同じ。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	36項に同じ。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについては起床時より援助しているが、おしゃれについては行きとどいていないところがある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みについて把握はしているが、工夫が足りないように思われます。	法人からの配食のため、利用者希望についてのメニュー変更は難しいようですが、おやつ作りや配膳、後片付けの参加等により、楽しく食事が出来るような支援が行われている。	食事の時、職員も利用者さんと同じテーブルで会話を交えながら食事をするにより、より温かい家庭的な雰囲気がかもし出されるのではないかと思います。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好や習慣も含めた生活のリズムを確保できるよう努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事毎には実施。入れ歯の具合についてもみながら接触状態を確認しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立の方針は徹底させ、ケアプランにのせて行うように努めています。	利用者の羞恥心を考慮しながら、一人ひとりの排泄パターンをスタッフが共有することで、自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	43項の中で、個別に対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴のリズムは、生活のリズムの一部として考え、その人に合った促しをするように努めています。	入浴を楽しむために入居者本人の好みの入浴剤や石鹸を使用することで、違和感なく入浴できるような支援が行われている。また、希望に応じて就寝前の入浴も行なわれており、安眠に向けた支援も同時に行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠のリズムも生活のリズムの一部として考え、バランスをとり休息(昼寝)の時間をとるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服もその人にとって環境の変化の一つと考えて、状態の経過観察をするよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	不十分と思われます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在単発で行う。継続性に欠け、生活のリズムに取り入れるよう努めています。	施設内に閉じこもらないために、家族と楽しむ機会を作ることで、積極的に戸外に出るような支援(外食や散歩、ドライブ)が行なわれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じて、御家と相談のうえ対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望、希望に応じて支援。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レイアウトはその都度変えています。季節感を採り入れるところまではいけていない。	居室内の空調に留意している。居室内は十分に光が室内まで差し込んで明るく、また、窓からの季節感が味わえるように工夫された空間である。 加湿機を置くことで、インフルエンザ対策にも充分配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同生活の中で気の合う、合わないも含め、お互いの生活習慣や性格を把握したうえでバランスをとっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個別にばらつきがあります。	居室内には、本人のお気に入りの飾りつけや馴染みの家具が持ち込まれていて、居心地良く過ごせる環境が整えられている。また、今までの住み慣れた環境を変えないように畳の部屋も用意されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の認識については表示等を設けて対応できることの工夫が不足していると思います。		